

枚方市総合文化芸術センター 寄附者銘板に本会名も

枚方市総合文化芸術センター（以下、文化芸術センター）が令和3年8月30日にオープンしました。

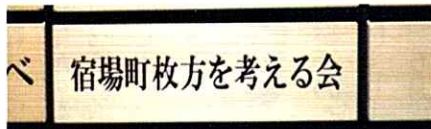
枚方市には昭和46年に設置された市民会館大ホールがあります。しかし、築50年を越えて老朽化し、平成30年6月18日に発生した大阪北部地震により使用できなくなっています。

文化芸術センターは、市民会館大ホールをより充実発展させた施設で、ラポールひらかた（枚方市総合福祉会館）の北側に隣接して建設されました。敷地面積1万3300

枚方市では整備のための寄附を募集、令和2年3月末現在4560万円余りの応募がありました。本会も募集の趣



㎡、延床面積1万4400㎡、総事業費145億円です。



旨に賛同し、30万円を寄附しました。オープンに伴い、1階エントランスの右側から第1駐車場へ通じる通路に「文化芸術センター寄附者銘板」が掲示されており、本会の名前も明記されています。



第93号

発行

宿場町枚方を考える会
会長 上谷 勝己
枚方市船橋本町2-87-7
072-857-2995

編集 広報委員会

主な内容

- 寄附者銘板に本会名も（1頁）
- 近郊の史跡を歩く会（2頁～7頁）
- 大正天皇統監、天野ケ原で大演習（8頁～10頁）
- 河内馬飼首荒籠（11頁～12頁）

近郊の史跡を歩く会を実施

石清水八幡宮などの寺社を巡る

三栗 石川 勲



令和3年度も新型コロナウイルス感染症のため、本会の活動は制限下にありましたが、緊急事態宣言が令和3年10月1日から解除されたことに伴い、10月22日に「近郊の史跡を歩く会」と題して、京都府八幡市にある石清水八幡宮と東高野街道(注)に沿った寺社を訪ねました。本稿では案内状の行程表に記載した

寺社を紹介します。当日は京阪電車の石清水八幡宮駅(旧駅名「八幡市」令和元年10月改称)に会員など24人が集まり、やわた観光ガイド協会のボランティアガイドさんの出迎えを受けました。最初の目的地である石清水八幡宮へは往復ともケーブルカーに乗りました。(注) 東高野街道 高野山へ

の参詣道の一つ、八幡市(石清水八幡宮)で京街道と別れ、枚方市などを経て河内長野市で西高野街道と合流します。

参道ケーブル

石清水八幡宮への参拝のため、男山索道(株)により大正15年(1926年)6月に開業しました。昭和19年(1944年)に戦争の資材供出のため廃止されましたが、京阪電車(株)が昭和30年(1955年)12月から復活営業させました。通称名は石清水八幡宮参道ケーブル(旧名「男山ケーブル」令和元年10月改称)ですが、京阪本線の車内放送では「参道ケーブル」と案内されています。

石清水八幡宮駅に隣接する「ケーブル八幡宮口駅」と、男山の山上にある「ケーブル

八幡宮山上駅の2駅があり、路線距離は411m、高低差82mです。



現在の車両は平成13年(2001年)に新調された二代目で、令和元年(2019年)6月にはデザインが変更され、「あかね」と「こがね」と名付けられた2両が運行しています。

石清水八幡宮

「やわたのはちまんさん」と親しまれ、皆さんもよくご

存じの神社です。私も何回かハイキングで訪れ、子どもの七五三詣ではご祈禱を受けました。

奈良の大安寺の僧で、空海の弟子である行教(ぎょうきょう)が貞観元年(859年)、八幡宮の総本社である宇佐神宮(大分県宇佐市)で神託を受け、都の南西にある男山の山上に八幡神を祀ったのが起源とされています。

天慶2年(939年)には伊勢神宮に次いで奉幣される地位を得て、天下第二の宗廟といわれ、朝廷、貴族から崇められました。さらに武家として勢力を伸ばしてきた源氏にも厚く信仰されていました。創建当初から神仏習合(神道と仏教を折衷して融合調和すること)の形態をとり、宮寺(神仏が混じった神社)として「石清水八幡宮護国寺」と

呼ばれ、境内には寺院、社坊が多数設けられました。明治の神仏分離(神道の国教化のため仏教から分離独立)に伴い、明治2年(1869年)に社名を「男山八幡宮」とし、さらに大正7年(1918年)に現在の石清水八幡宮と改めました。

平成24年に境内が国の史跡に指定され、また平成28年には本殿など10棟が国宝に指定されています。

一ノ鳥居

鳥居とは、神社などで神域と人の俗界と区分する境界で、神域への入口、住宅の門に相当します。参道に複数の鳥居がある場合、一番外側にあるのが「一ノ鳥居」です。石清水八幡宮の表参道の「一ノ鳥居」は、石清水八幡宮駅のロータリーから東高野街道沿いに

南へ徒歩で数分もかからない右側にあります。高さ9m、幅11mの花崗岩製です。



「八幡宮」と書かれた扁額の「八」は、向かい合った二羽の鳩で記されています。鳩は八幡神の使いであり、扁額

以外にも境内の随所におりま
す。なお、扁額の二羽の顔は
互いに後ろ向きです。

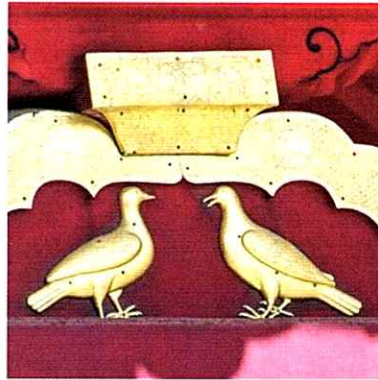
本殿

祭神の八幡神が鎮座する建
物です。清和天皇(第56代)
の勅命により貞観2年(86
0年)に八幡造りの社殿が造
営されました。現在の本殿は、
寛永11年(1634年)に徳
川家光が再建したものです。



前後二棟からなり、内殿は
切妻造、外殿は流造、両殿と

も檜皮葺になっていいます。本
殿は廻廊で囲まれており、南
側の中央には玄関に当たる楼
門があります。楼門の臺股(か
えるまた)にも向かい合う鳩
がいます。右側の鳩は口を開
いており、両方で阿吽(あう
ん)の鳩と呼ばれています。



社名の由来

男山には多数の湧水があり、
男山五井とか八幡五水と呼ば
れています。中でも霊泉とい
われたのが「石清水井」です。
現在は摂社の石清水社内にあ

りますが、石清水八幡宮が創
建される以前からあり、石清
水寺と呼ばれ、石清水八幡宮
の社名の由来とされています。
現在でも祭事には神前に供え
られ、「御香水」と呼ばれてい
ます。

男山展望台

宗教上の理由から石清水八
幡宮を参拝できない方でも行
けるのが展望台です。「ケーブ
ル八幡宮山上駅」を出ると左
側にあります。



標高108mにあり、眼下
に、宇治川、桂川、木津川の
三川合流地点が見え、春には
背割堤の桜にも出会えます。
さらに、京都市内はもちろん、

天王山、愛宕山、比叡山の山々
を遠望できる絶景ポイントで
す。なお、展望台内には谷崎
潤一郎文学碑があります。

神應寺
じんのうじ

一ノ鳥居の右側を徒歩で数
分のところにある曹洞宗のお
寺です。石清水八幡宮へは
ケーブルカーを利用できます
が、ここでは山門から本堂ま
で、階段180段を上ります。



宇佐神宮から八幡神を勧請した行教が応神天皇の霊を祀るために貞観2年(860年)に創建したと伝えられています。かつては応神寺と称していました。かつては天皇の号を寺名とするのは憚られるとして、神應寺に改めたといわれています。



明治の神仏分離までは、神仏習合により石清水八幡宮の宮寺(神社に付随した仏教寺院)でした。八幡市では最も

古い古刹です。ご本尊は薬師如来、開山した行教律師座像は国の重要文化財です。

航海記念塔

神應寺山門の左側に石垣と石柵で囲まれた大きな五輪塔があります。五輪塔は平安時代末期から、供養塔、供養墓として建てられました。石柵に接して立てられた八幡市教育委員会の説明版の標題は「石清水八幡宮五輪塔(航海記念塔)」となっています。



高さ6m、幅2・4mで国内では最大級といわれており、鎌倉時代の石塔として国の重要文化財に指定されています。

石清水八幡宮の宮寺だった旧極楽寺の境内にあったのですが、廃寺となり五輪塔だけが残されたものです。本体に刻銘などがなく、建立の起源などが不明なため、様々な伝承があります。

一つは、平安時代の末期に尼崎の商人が宋との貿易の帰路、大しげに遭い、石清水八幡宮に祈ったところ無事に帰国できました。これを感じて建立したというもので、以後、船乗りたちが航海の無事を祈願するようになり、「航海記念塔」と呼ばれました。五輪塔の側には、昭和10年に立てられた「航海記念塔」と刻まれた石柱があります。他には、八幡神を勧請した

行教の墓などの諸説があります。

ぜんぼうりつじ 善法律寺

唐招提寺の末寺で律宗のお寺です。石清水八幡宮駅から東高野街道を南へ徒歩で15分余り進むと右側にあります。



石清水八幡宮の検校(寺社の総務監督者)である善法律寺宮清が正嘉年間(1257年

（59年）に東大寺の実相上人を招き、自邸を寺として開山しました。ご本尊は「僧形八幡大菩薩座像（八幡市文化財）」で、明治の廃仏毀釈（仏像、經典などを破壊した仏教排斥運動）のときに石清水八幡宮から遷座したものです。

紅葉寺

室町時代、善法寺通清の娘である良子（よしこ）が二代將軍足利義詮の側室となり、三代將軍義満の生母となりました。良子は自分が好きな楓を寺に寄進し、現在も多くの楓が境内にあるため、寺は別名「紅葉寺」と呼ばれています。

慰霊塔

本堂（京都府指定文化財）手前の境内に慰霊塔があります。昭和9年9月21日に襲った室戸台風で犠牲になった八

幡尋常高等小学校（現八幡市立八幡小学校）の校長・教師と児童を合わせて34人の名前が刻まれています。当時は台風情報が乏しく、さらに台風のスピードが速かったため、登校時は歩ける程度の風が在学中には暴風になっていました。木造校舎が倒壊し、その下敷きになったのです。



慰霊塔は台風の翌年に建立されましたが、その後地蔵尊が祀られ、「子守地蔵尊」と呼ばれるようになりました。

令和3年3月、国土地理院の「自然災害伝承碑」に指定されています。

八幡小学校児童会の役員らは、毎年命日に慰霊塔の周りを清掃して献花しているようです。（令和3年は、コロナ禍のため校長らが代参）

五輪塔

善法律寺の境内にも五輪塔があります。戊辰戦争で焼失した旧大乘院の境内にあった鎌倉時代の作で、高さは2・2m、廃寺時に境内の地中に埋められていたものです。右脇にある「大乘院之五輪」の碑文によると大正10年に当地へ移転されています。

正法寺

源頼朝の御家人で石清水八幡宮の社家（世襲神職の家柄）、

志水氏の祖となった高田忠国が建久2年（1191年）に創建しました。天文15年（1546年）に後奈良天皇（第105代）の勅願寺となっています。



お亀の方

正法寺の中興といわれている女性です。石清水八幡宮の社家であり、正法寺住職の志水宗清（しみずむねきよ）の娘で、徳川家康の側室となり、

徳川御三家筆頭尾張徳川家の初代藩主義直の生母となります。以後、正法寺は尾張徳川家の庇護を受けることになりました。



お亀の方像
清涼院蔵
(伏見区)

正法寺の現在の伽藍は、寛永6年(1626年)にお亀の方が寄進したもので、本堂大方丈、唐門は国の重要文化財、小方丈、書院、鐘楼は京都府の文化財となっています。彼女の初婚の相手は竹腰正時です。正信(後に尾張藩附家老)を生みますが、夫とは

死別します。その後、石川光元の側室となり光忠(後に尾張藩士)を生みます。しかし、

正室の嫉妬により離別、実家の正法寺に戻りました。家康と出会ったのはこの時です。子どもに行水をさせていると

家康の行列が通りました。彼女は急いで水の入ったたらいに子どもを入れたまま運び、控えます。この姿に家康は「この人なら元気な子を生んでくれる」と側室に迎えました(他に諸説あり)。お亀さん22歳

文禄3年(1594年)のことです。

文禄4年(1595年)に家康との第1子仙千代を生みますが6歳で夭折、慶長5年(1600年)に五郎太(後の義直)を生みます。家康の

死後は相應院と号し、名古屋城で暮らしました。寛永19年(1642年)に死去、享年

70歳 聡明な女性だったと伝えられています。

はしりいもち 走井餅

正法寺での拜観が終わると、「近郊の史跡を歩く会」は散会です。枚方方面へ帰るには石清水八幡宮駅に戻るの一般的な選択肢です。「一ノ鳥居」まで戻ると、向かいにある「やわた走井餅老舗」の「走井餅」がいただけます。門前

名物で、こし餡を柔らかい羽二重餅で包んだお菓子です。走井餅は明和元年(1764年)、初代井口市郎右衛門正勝が天津で湧水「走井」を使って餡餅を作ったのが始まりです。走井とは、水が走るように溢れる湧水のこと、歌川広重の東海道五十三次では、

大津「走井茶屋」に茶屋と走井が描かれています。明治43

年(1910年)に六代井口市郎右衛門の四男嘉四郎が名水の石清水の麓で開業し、現在に至っています。なお、本家大津の「走井茶屋」は、明治初期の鉄道の開通に伴う人流の変化で廃業しています。



やわた走井餅老舗



走井餅

大正天皇が統監 交野ヶ原で大演習

交野市天野が原町 堀家 啓男

交野ヶ原を舞台にした陸軍の特別大演習が大正3年（1914年）11月、大正天皇が統監して行われました。2年前に天皇になった大正天皇はまだ気力も体力も旺盛だったようです。野山や田畑が広がり、淀川があり、その支流の三筋が横切る交野ヶ原（後述）は格好の軍事演習場でした。

二つの行幸碑

大正3年11月15日から3日間、大阪陸軍特別大演習の前半が、枚方北部から南へ広がる交野ヶ原一帯で展開されました。大正天皇は、交野の私部、「上の山（うえんやま）」の桑畑に本営（御野立所と呼ぶ）を置き統監しました。現在の枚方市と交野市の境界に近く、四條畷から北上してきた旧東高野街道が、生駒山系

の裾野沿いに分岐する山根街道に入ったすぐの地点です。私部の集落から遠く、一面の桑畑。村から見て高台で、地形は北方へなだらかに下り、はるか天王山、交野ヶ原の野山を一望できました。

天皇が双眼鏡で交野ヶ原一帯での演習を観閲した本営址には、「閱武駐蹕（えつぶちゅうひつ）記念碑」という勇ましい文字が刻まれた大きな石碑が建っています。「参謀総長子爵長谷川好道書」とあり、裏面には「大正三年特別大演習之際駐蹕之所、陸軍中将大迫尚道謹書」とあります。



閱武駐蹕記念碑
(交野市私部西4丁目)

石垣積み目の大きな土台、台座と高さ約1メートル90センチの碑です。これに関する記述が「交野町史下巻」（交野市）にあります。

この土地の所有者、私部の富田武右衛門が、「御野立所」として使われたことは名譽であり、記念碑建立のために交野村に寄付するとあり、演習直後の11月20日、交野村は臨時村議会を開き、寄付收受の議決を行い、議案では「御野立所」となっています。お茶の接待役は、日露戦争で勲章をうけた在郷軍人を選任したそう、接待役本人はたいへんな緊張ぶりでしたが、天皇はざつくばらんでご機嫌が良かったとのことでした。天皇はこの数年後には体調を悪くしますが、若い頃は漢詩もつくる教養人で、人間味あふれるたいへん磊落な人物

だったようです。(参考「大正天皇」原 武史著)後に宮内省から接待にあたった本人に金5円が下賜されたとのこと。記念碑は当時、私部が属していた交野村が建立したと思われま。

その南方、約300メートルのJR星田駅の近くにも「大正天皇行幸記念碑」と刻まれた大きな石碑があります。「陸軍大将一戸兵衛書」と添刻され、背面には「大正三年特別大演習御野立所 昭和三年十一月建之」とあります。



大正天皇行幸記念碑
(交野市星田5丁目)

演習当日の11月15日午前7時50分、大正天皇は演習を

統監するため片町線を利用し、最寄りの星田停留所に降車しました。一旦、駅東200メートルに設けられた野立所で説明を受けます。ここが後に記念碑が建てられた場所です。

天皇が降り立ったのが星田停留所、そして、演習状況の説明を受けたのが星田村エリアの野立所であったことから、この記念碑は星田村が建立したのでしょう。大正天皇が崩御され、追悼の気持を表すためか、建立は昭和3年(1928年)です。碑の規模は私部の閔武駐蹕碑よりもやや大きいようです。崩御後の建立ですので、「大正天皇行幸記念碑」となっています。

時期はともあれ天皇への忠義の気持を競ったのか、それとも張り合ったのでしょうか、後日に建てた星田の方がやや大きいと感じるのは人情です。

いずれにしても、両碑ともとも立派です。いまは両村とも交野市に属していますが、どちらの碑にも説明板がありません。しかも星田の方は立ち入り禁止になっています。両方とも耐震補強を行い、来歴を語る説明板を立てれば、短い大正時代に関する貴重な歴史遺産となるでしょう。

陸軍大演習

大正天皇統監の大演習が展開された交野ヶ原は、今の枚方市と交野市が大きく含まれていました。演習には北軍2個師団2万人、南軍2個師団(大阪第4師団を含む)2万人、合わせて4万人が参加する大規模なものでした。北軍は、京都方面から山崎で淀川を渡る舟橋を仮設、楠葉に渡り京街道を南下、磯島河岸に

布陣、途中、さらに東へ東高野街道に沿って散開し、交野ヶ原の中央を一斉に進撃しました。さらに京街道を下った北軍は天野川河口付近から南軍後方への回り込みを図ります。

南軍は、交野ヶ原を東西に貫く天野川を防衛線として左岸に沿って前線を展開しました。天野川上流の河内磐船に大砲陣地を敷き、星田駅南に臨時野戦病院を設置したそうです。いずれもどこにおかれたのか史料がありません。(参考「古代から近世の枚方」第1章 近世の枚方宿をめぐる「一様相」西川寿勝著 「宿場町枚方を考える会」2015年11月15日、講演会資料) 両軍は天野川を挟んで対峙します。上空には複葉機が数機、偵察のため飛んでいたそうです。この一連の動きを大

正天皇が観閲したのです。北軍の騎兵部隊が淀川の川原を利用し、寝屋川方面まで回り込み、背後から南軍を攻撃する動きを見せたため、南軍は撤退します。交野ケ原の「大戦（おおいくさ）」は北軍優位のまま終結し、特別大演習は翌18日から20日にかけての後半、河内中部、八尾方面に移ります。大正天皇は18日以降、元気に久宝寺方面で演習を統監したそうです。

交野ケ原を舞台にした大演習では、交野に二つの大きな記念碑が建ちましたが、模擬戦闘が行われた枚方には、知る限りどこにも記念碑がないようです。「上の山」を北西に下れば、すぐ融通念仏宗の中興、法明上人の旧跡「本尊掛松」がある茄子作で旧川越村です。どうも大正天皇は現在の枚方エリアには一歩も足を

踏み入れなかったようです。

枚方にとっては大演習に動員された兵士や軍馬、兵器によつて踏み荒らされた山野や田畑が残され、銃声や轟く砲声に緊張を強いられる迷惑な実態だったからでしょうか。なお、統監後、天皇は折り返し星田停留所に戻り、当日、午後0時40分発の列車で帰阪したそうです。

JR藤阪駅近くの「宮山」が住宅地に開発される前、軍の演習で使われた塹壕か、砲台跡のような100メートルもあるくぼみや土塁の痕跡があったという記録があります。この大演習の名残でしょうか。遺跡が残っていないのは残念なことです。（参考「藤阪の今昔物語」寺島正計著）

いずれにしても第二次世界大戦の敗戦まで、枚方から交野にかけての交野ケ原一帯は

微高地で、小河川や谷があり、野山や藪が広がり、陸軍の演習には最適だったようです。

丹波篠山や福知山から、連隊がやつてきて、定期的に演習を行い、兵が地元各村の民家にも宿泊したそうです。枚方、交野での軍に関する歴史は、禁野火薬庫や香里の軍需工場、津田、星田の片町線引込線跡だけではなく、民間人の生活にも身近な存在だったのです。

交野ケ原について

枚方市史第2巻の記述では、交野ケ原とは「淀川左岸の流域に沿って、八幡丘陵との間の微高地に広がる、北は楠葉、船橋から招提、阪にかけて、西は小倉、渚、禁野から、東は田口に至り、片鉾、甲斐田、中宮を中心に、南は村野

から津田、交野の倉治、郡津、私部にいたる旧交野郡の大部分の地」とされています。

平安時代には、天皇や貴族の遊獵の地でした。禁野という地名が残るのは、天皇以外の人が遊獵することを禁じた野山だったことに因みます。

有史以前、縄文海進の頃、淀川の中流、現在の枚方あたりは大きな潟になっており、平潟（ひらかた）と呼ばれ、その潟をとり囲む微高地、潟野（かたの）の原があったのでしよう。その交野ケ原は、今から1000年ほど前、大正時代の初めでも、軍事演習が行われるほどの野や山河が広がり、古代の光景のまま残っていたのです。住宅都市として発展した現在の枚方、交野を見ると隔世の感がします。自衛隊が演習をすることはないでしょうね。

枚方ゆかりの偉人伝

河内馬飼首荒籠

小倉東町 平良一郎

日本書紀卷第十七に登場する河内馬飼首荒籠（かわちうまかいのおびとあらこ）は、1500年ほど前、6世紀初頭（古墳時代）の河内国樟葉（枚方市楠葉）の人です。河内馬飼は氏（うじ）、首は姓（かばね）、荒籠が名です。生没年は不明です。彼は淀川の河川敷を利用した牧で馬の飼育を行う、馬飼部と呼ばれていた部族の首長でした。わが国に、4世紀末頃に朝

鮮半島から渡来した馬は、大王家や貴族たちの乗馬として普及しました。馬飼部で飼育された馬は、こうした上層階級に売られることとなりますが、同時にその馬の馭者もまた馬飼部のところから派遣されていきました。馬の口取や世話は馬飼部から派遣された男たちが行うことで、彼らはあちこちの貴人のもとへ派遣され、それぞれに貴人たちに近侍することになっていました。

そして、彼らが耳にした情報は、自ずと馬飼部の首長に集まってきます。このために馬飼部は、情報機関のような存在になりつつありました。当時、武烈天皇が後嗣を定めずに崩御したため、大連・大伴金村、物部麁鹿火、大臣・巨勢男人ら有力豪族が協議して、まず丹波国桑田郡（京都府亀岡市）にいた第14代仲哀天皇の5世の孫である倭彦王（やまとひこのおおきみ）を

推戴しようとなりました。しかし、倭彦王は迎えの兵を見て恐れをなし、山の中に隠れて行方不明となりました。

次に大伴金村は、応神天皇の5世孫の男大迹王（おおどおう）を迎えようとなりました。臣・連たちが節の旗を持って御輿を備えて越前まで迎えに行くと、男大迹王には大王の品格があり、群臣たちにはかしこまり、忠誠を尽くそうとしました。しかし、男大迹王はこれらの群臣を疑っており、大王に即位することをすぐには承知しませんでした。

男大迹王はかねてから知人である河内馬飼首荒籠に密かに使者をおくり、大臣・大連らが男大迹王を迎え入れる本意を質問しました。荒籠の使者による詳細な説明によって、ようやく男大迹王は納得して、越前を出発しました。やがて

荒籠の提案によって、男大迹王は荒籠自身の樟葉の邸宅を仮住まいとして、近くの丘の上に宮殿を新築して大王(継体天皇)として即位しました。



継体天皇樟葉宮地の碑
(枚方市樟葉丘2丁目)

「よかった、馬飼首よ。お前がもし使いを寄越して知らせてくれなければ、危うく笑いで者にされるところであった。世に『貴賤を問うことなかれ。ただその心を重んずべし』と言うのは、荒籠のことをいうのであろう」と、その後も荒籠は継体天皇の組織的な諜報機関として活躍し、天皇の近臣として重用されました。



会員募集中

本会は年数回の講演会や観光バスを利用した日帰り見学会を実施しています(コロナ禍の自粛あり)。皆さんの入会をお待ちしています。ご希望の方は電話072(857)2995上谷まで。

機関誌の文責について

本誌「宿場町ひらかた」の文章のうち、著者名のあるものは、投稿された原文をもとに編集しています。編集の都合上、少し原文と異なる部分もあります。変更後も著者の確認を得ており、文責は寄稿者にあります。ご了承ください。

ホームページを開設しました

本会をよりご理解、ご賛同をいただくため、事業内容、入会案内などを掲載しています。
HP <https://syukubamachi-hirakata.com>

宿場町枚方を考える会

🔍

検索してね!